

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		入居者の重度化に伴い身体能力が衰えても外出したい。車椅子の人がいても共に外出したい。	車椅子であっても社会生活に参加し続けること。 外出がスムーズにできること。	外出をする時、他利用者様が車椅子の人を押すことでスムーズになったりするので、助け合いながらの外出をすることで気分転換や社会参加を促している。	6ヶ月
2		利用者の現実と認知度がかけ離れている。	本人の意思で何も出来ないのに介護度が低すぎるので、調査員に見直して欲しい。	日々の目安としては、介護度と関係なくケアはできているが、個人の介護度は大事だと思っているので見直してほしい。	ヶ月
3		看取りが次々と起こる。人手がとられることと看護師の人手が必要になって費用がかさむ。	やさしい安心な看取りをする費用が給付を受けられないか、制度として方向性を知りたい。	人手を充配置するには看取り加算が今の4～5倍欲しい。実費としてかかっている。	ヶ月
4		通院回数が増えるが、家族が忙しかったり無関心だったり、簡単に天鼓で連れていってと言われる。	緊急時対応はホーム内で行うが急がない受診は家族に付き添ってもらおう。	丁寧に説明をすること。 親の病状を知る大切さを説明する。	3ヶ月
5					ヶ月